

群 教 七	G16 - 01
	令2.275集
	総合的な探究 の時間－高

# 総合的な探究の時間における、目的に応じた的確な 「情報の収集」をする力を育成するための指導の工夫 －「聞く力育成シート」の活用と探究活動の振り返りを通して－

特別研修員 関根 崇浩

## I 研究テーマ設定の理由

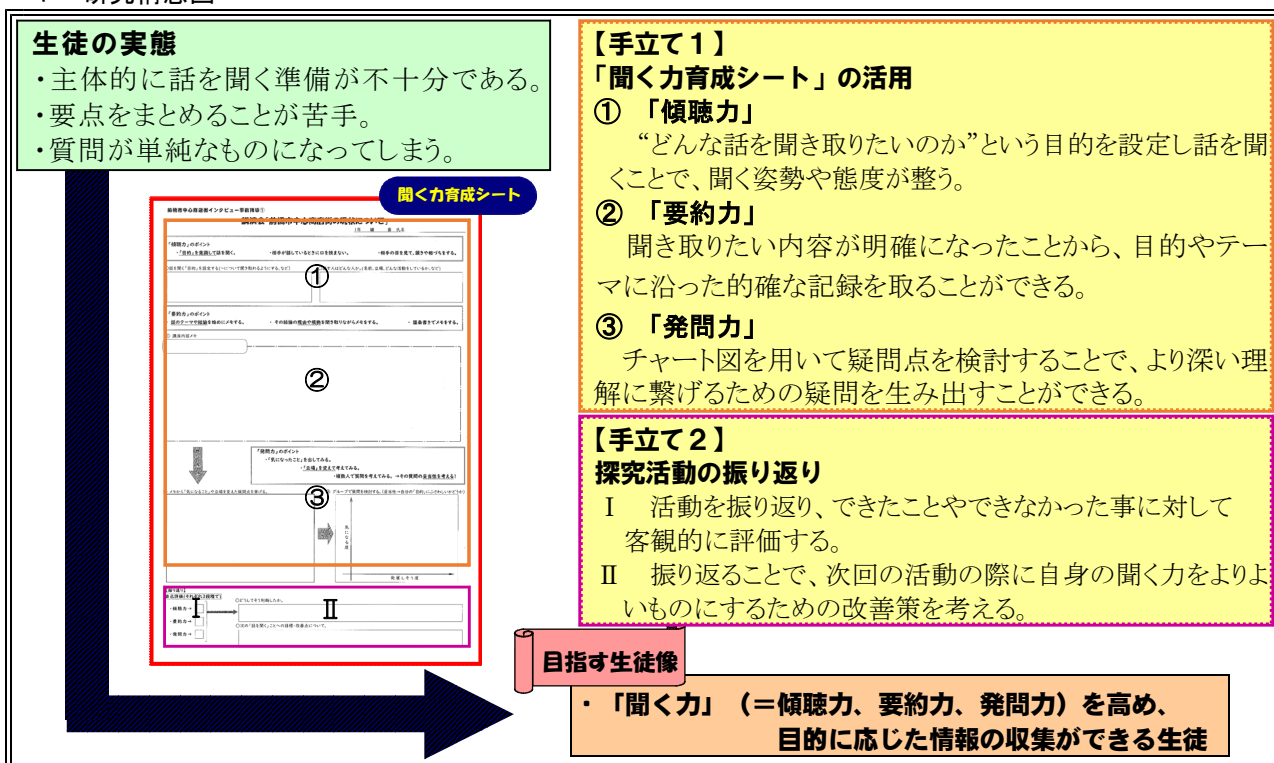
高等学校学習指導要領総合的な探究の時間編において、様々な立場から多角的に物事を考え、問い続ける姿勢の育成が肝要であることが提言された。中でも、課題解決に向けた「情報の収集」をする力は、「総合的な探究の時間」のみならず、その後の社会を生き抜く上でも必要となる能力である。その力を身に付けるために、研究協力校（以下協力校）1年次の「総合的な探究の時間」では、「様々な媒体の情報を効果的に取り入れる(=INPUT)」ことを目標としている。この目標を達成するために様々な立場の方々から話を聞くことで、自身の進路選択や職業観・就労観の構築に役立てるような活動が多くある。その活動をより有意義なものにするためには、他者の話を的確に聞く力を育成することが必要不可欠である。

しかし現状の生徒の抱える課題として、話者の立場や考え・状況を把握しようと考えながら聞いたり、目的をもって話を聞いたりといった聞き方ができておらず、受動的になってしまっていることが挙げられる。

そこで本研究では、総合的な探究の時間における「情報の収集」をする際に必要な力の中でも、とりわけ「聞く力」に焦点を当てた。その中で、「人の話を聞く」だけではなく、「人に話を聞く」ことも必要だと考え、「傾聴力」「要約力」「発問力」という三つの力を設定した。「傾聴力」は目的をもって人から話を聞く力、「要約力」は聞いた話から自身の中で必要と思われる情報をまとめる力、「発問力」は聞いた話をよりよく理解するための疑問を生み出す力である。これら三つの力を身に付けられるような「聞く力育成シート」の作成と、「総合的な探究の時間」の各活動の振り返りを通して、聞く力(=傾聴力、要約力、発問力)を高め、目的に応じた情報の収集ができる生徒を育成することを目指し、テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

協力校では、探究活動の中で「まちづくり」に関する有識者や市の職員、地域に住む方々から様々な話を聞く。その活動をよりよいものとするために、以下の手立てを用いた。

**手立て1 話を的確に聞き、情報を収集するための「聞く力育成シート」の作成**

**手立て2 各活動の振り返りを通して、自身の聞く力の改善を図るような振り返りの工夫**

手立て1では、生徒が活動をする際に、よりよい情報収集のための手段となるよう工夫した。その中でも、ただ話を聞くのではなく、「情報収集のための話を聞くこと」が意識できるようなシートになるようにした。具体的には、「傾聴力」「要約力」「発問力」それぞれの力を高めるための“ポイント”を示した点である。また、「傾聴力」では話す人がどんな人なのかを事前に調べておくことで、その人からどのような話を聞き取りたいかという目的を設定できるようにした。「要約力」では目的を設定したことから話のどこに注意するかが明確になり、目的やテーマに沿った内容を記録できるようにした。「発問力」では聞いた話からより深い理解に繋げるために、疑問点を客観的に検討することができるようにした。

手立て2では、手立て1で高める三つの力（「傾聴力」「要約力」「発問力」）の自己評価を3段階評価で行うことで、自身の行動を振り返り、できたことやできなかったことに対して客観的に評価できるようにした。また、それぞれの活動が単体のものでなく、系統性をもち、自身の行動や思考を振り返ることで次の活動の目的や指針になるようなものにした。さらに、振り返りの記入欄を「聞く力育成シート」に組み込むことで、振り返りのしやすいものとなるようにした。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 手立て1について、生徒の意識や態度に大きな変容が見られた点で効果があったと考える。特に「傾聴力」の自己評価が高い生徒が多かった。事前に講師の情報を基に話を聞く目的を設定したため、過去の講演会よりも意欲的に聞くことができたのだと考える。また、意欲が高まったことで要約も今まで以上にしており、感想では「枠が足りなかった」という声が多数上がった。また「発問力」でも、生じた疑問を検討することで質の高い質問をすることに繋がられた点や、普段は多く発言しない生徒が学年全体の前で質問をするといった様子が見られた点からも、「聞く力育成シート」の有用性が高いと判断した。講師の方々からも、ここ数年で最も質の高い質問だった、という評価をいただいた。
- 手立て2について、その活動だけの振り返りをするのではなく、次の講演では何に留意して聞くべきなのか、という点に注意を向けさせることができた。これまでの振り返りではその活動の感想や考えを記述するだけに留まっていたのに対し、今回の振り返りでは自身の行動を客観的に評価する様子が見られた。「聞く力」といった大まかなものではなく、それらを構成する三つの力を明確に示すことで、それぞれの力の評価を自分なりの理由を挙げながらできていたのだと考える。

### 2 課題

- 「聞く力育成シート」の構成について、生徒の活動に即した改良が必要である。今回のシートでは三つの力を身に付けるポイントを明示した。しかし、実際の活動ではそのポイントを見ながら行動しておらず、確認事項として全体に向けて示す程度で十分であったと考える。また、シートを継続的に使用することを考えると、いつでも見返せるようなものを別用紙などで用意の方が効果的であると感じた。また、疑問を検討する際に使うチャート図は有効に活用できている生徒が少なく、チャート図をより効果的に用いるために説明を入れるなどの工夫が考えられる。
- 振り返りについては、自己評価の基準を設定しなかったために効果が薄いものになってしまった。生徒は自己評価を「できていたかどうか」という視点で行っており、自分の目的に応じた要約だったか、より深い理解のための質問を考えられたか、という視点が欠けていた。授業者が段階別の評価を設定したり、事前に生徒自身が基準を考えたりすることで、自己評価の効果が高まると考えられる。また次の活動でも、どのようなところに留意し聞くべきなのかを意識しやすくなると考えられる。

## 実践例

### 1 単元名 「前橋市中心商店街インタビュー」(第1学年・2学期)

#### 2 本単元について

本単元では、生徒に必要な情報を収集する力を身に付けさせることがねらいである。そのために、前橋市の職員や前橋市のまちづくりに関係する方々から話を聞くことや、実際に前橋市中心商店街で店舗を営まれている方々へインタビューすることを通し、現在の商店街がもつ課題を意識しつつ、どのようにすれば地域の活性化につながるかを高校生の立場から考え、提案をする。それらの活動では、商店街の現状がどのようなものなのかを把握するため、自身の課題に対して必要な情報を収集する力が必須となる。そのため、「聞く力育成シート」を活用させることで、生徒の情報を収集する力を向上させたいと考えた。

以上のことから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<p>本単元を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 様々な事柄や他の考え方に会うことで、社会や地域を構成する複雑な要素について理解することができる。(知識及び技能)</p> <p>イ 課題の解決に向けて、どのような情報を収集すべきかを検討し、活動を重ねていくことで的確に情報を収集することができる。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>ウ 他者と協働しながら課題の解決に向けて、地域やそこに関わる人々と向き合うことができる。(学びに向かう力、人間性等)</p>	
評価 規 準	<p>(1) 様々な事柄や他の考え方に会うことで、社会や地域を構成する複雑な要素について理解することができる。(知識・技能)</p> <p>(2) 課題の解決に向けて、どのような情報を収集すべきかを検討し、活動を重ねていくことで目的に応じた情報を収集することができる。(思考、判断、表現)</p> <p>(3) 他者と協働しながら課題の解決に向けて、地域やそこに関わる人々と向き合うことができる。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	
過程	時間	主な学習活動
つか	第1 ～4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>共愛学園前橋国際大学の奥田教授と、Comm代表の橋本氏による講演会から、商店街が抱える課題を把握し、その解決に向けた方向性を模索する。</li> <li>共愛学園前橋国際大学の鈴木教授より、インタビューの手法について学ぶことで、自身が必要とする情報を収集するための具体的な計画を立てる。</li> </ul>
追究する	第5 ～6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>前橋市中心商店街でのインタビューを実施することで、人に話を聞いて情報を収集するために必要となる技能を身に付ける。</li> <li>インタビューを通して、自身が必要とする情報を収集する。</li> <li>SNSを通して店舗(事業所)を紹介するための写真の構図を考え、撮影する。</li> </ul>
まとめる	第7 ～8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>前橋市中心商店街インタビューで収集した情報を基に、整理・分析を行い、グループによるクラス発表を行う。</li> <li>インタビューさせていただいた店舗(事業所)について、SNSを通じて一般の方々に紹介する。</li> </ul>

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全8時間計画の第1～2時に当たる。本時では、前橋市のまちづくりに関する講師2名より「前橋市中心商店街の現状」についての話を聞き、その内容のメモを取る。講演後は聞く中で生じた疑問点について他者と共有し、質問の「質」の検討を行った。また、その疑問の解消のための質疑応答を行った。

これらの活動をよりよいものとするため、以下のように手立てを具体化した。

<p>手立て1 話を的確に聞き、情報を収集するための「聞く力育成シート」(6ページ資料参照)の作成</p> <p>(1) 傾聴力</p> <p>他者から話を聞く際、その話者の所属や分野、どんな人物なのかやどのような考えをもっているか等</p>
---

についての事前情報が無ければ、聞く効果は低いものとなる。そのため、生徒には事前にどのような人物がどのような演題で講演を行うのかを紹介し講師の情報についてまとめさせた。また、その人からどんな話を聞きたいかについての目的を設定させた。

## (2) 要約力

一般に他者からの話を書き留める際、限られた時間の中でその内容全てのメモを取るといった網羅的な記録は不可能である。話を聞きながらその内容を取捨選択し、自分にとって必要となる情報に特化して記録することが望ましい。そのため、要約に向けてのポイントを示し、メモを取る際の指針とした。

## (3) 発問力

広く、講演会の終わりには質疑応答の時間が設けられるが、生徒は大人数の前で個人の質問をすることを強いられ、不安や恥ずかしさから積極的な質問ができないことがあるのではないかと感じる。そのためここでは、疑問点から発問に至るまでを個人ではなく複数人で行うことで、不安感を低くし、質問をやすくする環境を整えた。また、複数人で活動する際の手段として、個人的な興味・関心の指標である「気になる度」と、その質問の回答からさらに質問ができそうな指標の「発展しそう度」の二つの指標を用いたチャート図で、疑問点を客観的に検討できるようにした。

### 手立て2 各活動の振り返りを通して、自身の聞く力の改善を図るような振り返りの工夫

講演会での質疑応答の後、振り返りを行った。生徒は「聞く力育成シート」内の振り返りより、三つの力（傾聴力、要約力、発問力）の自己評価をした。1～3の3段階で評価し、その理由についてを記述式で書かせた。また、次時の活動に向けての改善点について考えさせ、次の活動への目標となるようにした。

## 4 授業の実際

### (1) 事前準備

講演会の準備として、生徒に「聞く力育成シート」と講師紹介のプリントを配布した。生徒たちの多くは、講師がどんな人物なのかに興味をもっており、プロフィールから「どんな話を聞きたいのか」といった目的を設定できていた(図1、2)。

○話す人はどんな人か。(名前、立場、どんな活動をしているか、など)

- ・○○先生 教授 教育→文化と文化をつなげる。
- ・○○先生 代表理事 まちづくり → 調査研究、計画立案 実践、支援

図1 講師の情報

○話を聞く「目的」を設定する(〜について聞き取れるようにする、など)

- ・文化をつなげるとはどういうことか知る。
- ・今、どのようなまちづくりが行われているか知る。

図2 設定した目的

### (2) 講演会

講演を聞いている間、生徒は熱心にメモを取っていた。生徒によっては枠に収まりきれないほどの量の情報を書いていた者もいた。書き方についても、文章で書くのではなく要点をまとめ、箇条書きで書いたり矢印や丸印などの図形を用いて話のつながりを示している生徒もいた(図3)。

前橋 変化していく中で... 4時間 毎週まちづくりに関して授業するの? 本がより社会をつくる自分達自身でいく必要がある今の考えを覚えていく必要がある

準備には23分かかる

「効率よく働けるように目指している」 群馬といえば「前橋」を目指して、

「めざす」 商店街の利用者が少ないの? 悪いもので場所には 周りに建つ店がたかこんあり(リサーチ中)

・遠くだけでなく自分の周りも大切に

・大人は大人、若者は若者

・大人ではできない、私達だからできること

商店街の活性化のいい所、魅力?

図3 メモの例

### (3) 複数人での活動

講演を聞いた後、生徒たちは車座となり、講演会の内容についての疑問点を共有した。また、チャート図を用いて質問内容の検討を行った。生徒はお互いの「聞く力育成シート」を見せ合いながら話し合ったり、自分たちの質問がチャート図のどの位置にあるのか議論したりするなど、意欲的に関わり合う姿が見られた(図4、5)。



図4 複数人での活動の様子

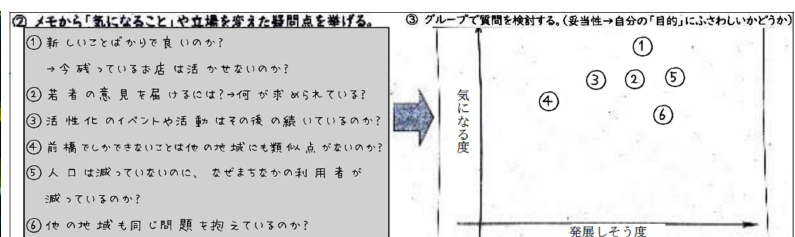


図5 疑問点と検討で用いたチャート図

#### (4) 質疑応答

複数人での活動を通し、疑問点について検討を行ったことで、生徒は自分たちの疑問点について自信をもって講師の方々へ質問することができていた。検討で使ったチャート図より、二つの指標が最も高いものを質問していた。質疑応答の時間は30分という長い時間であったが、7人の生徒が質問をし、疑問の解消に向けて行動していた。また、自分たち以外の質問への回答に対し、メモを取ったり、相談をしたりしている姿もあった。

#### (5) 振り返り

振り返りでは、生徒は短時間であったがよく書くことができていた。特に、講演を聞く際の姿勢や目的については、今まで確認していなかったことであるため、振り返りの記述の中で触れている生徒が多かった。また、“何を聞き取りたいか”が明確であったため、疑問点を多く出すことができていた生徒も多かった。それぞれの力の評価については、「傾聴力」や「発問力」の評価が高い生徒が多かったが、「要約力」は低く評価している生徒が目立った。(図6)。

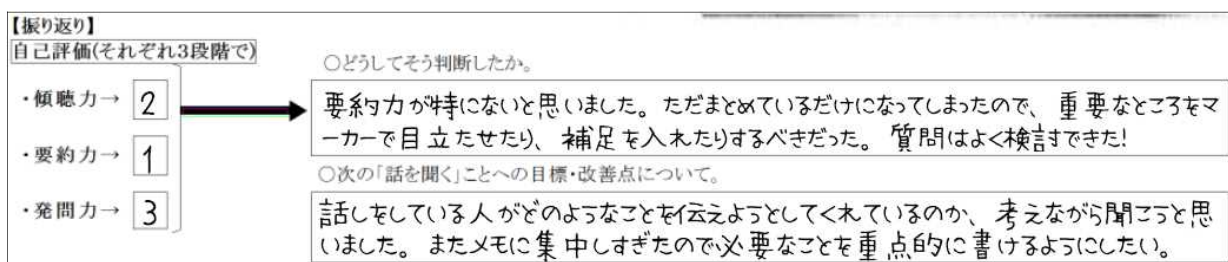


図6 振り返り

### 5 考察

実践授業での生徒の様子から、「聞く力育成シート」を使用することで、生徒が目的をもって話を聞く「傾聴力」や、聞いた内容から疑問を挙げる「発問力」について高めることができたと考え。理由としては、これまでの講演会での生徒の様子に比べ、明らかに変容が見られたからである。これまでの講演会では、その講演会に臨む目的やどんな人が講師なのかについてまとめる機会を設けていなかったことや、ワークシートがメモ帳代わりになっていることなど、生徒が何のために聞いたり考えたりするかということに焦点を当てることができていなかった。そのため、ただ何となく活動に臨んでいたのではないかと考えた。今回の「聞く力育成シート」で講演会前に目的を設定したことや講師がどんな方なのかをまとめておくことで、生徒が集中して話を聞くことができたのだと考える。また、疑問点を複数人で検討することで、その疑問点がどれだけ発展性をもつのかということを吟味できたため、自信をもって質問することができた。この活動をすることで、個人で質問する際に感じていた不安や恥ずかしさが減り、大人数の前で質問することができたのだと考える。以上のことから、「聞く力育成シート」に有効性があると判断した。

一方、「聞く力育成シート」の構成面では改良が必要だと考える。授業検討会でもシートの構成についての指摘が多く、それぞれの欄の大きさや配置、ポイントを掲載しておく必要性についてお話をいただいた。特に「要約力」については、シートの記入すべき欄にメモを取るのか、聞いた話を要約したものを書くのかがわかりづらいという指摘をいただいた。実際の生徒のシートを見てみると、大半の生徒が聞いた話をそのままメモしており、「要約」につながっていないことがわかった。対応策としては、話を聞いてメモを取る欄とは別に、そのメモした内容と自身の聞く目的に即した「要約」をするための欄を設ける。そうすることで、生徒がより活動しやすく、思考の過程もスムーズになるのではないかと考える。

振り返りについては、生徒に「次の『話を聞く』ことへの目標・改善点」を記入させることで、「聞く力」が今回の講演会だけのものではなく、今後の活動と関連している点について、意識付けができたと考え。しかしながら評価については、自己評価するに当たっての段階的な指標が無いために、客観的な視点から自己評価をするのではなく、自分の感覚による評価(主観的な評価)になってしまった。自己評価をさせる場合、どのような行動や考えをすることができればどのような評価になるのかといった、それぞれの力が高まるとどのような状態に至ることができるのかを示さなければ評価がしにくいということがわかった。評価の際の根拠・理由をより明確にすることで、生徒のよりよい自己評価につながるはずである。



6 資料

【聞く力育成シート】

前橋市中心商店街インタビュー事前指導①
「聞く力」育成シート

### 講演会「前橋市中心商店街の現状について」

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

**「傾聴力」のポイント**

- ・「目的」を意識して話を聞く。
- ・相手が話しているときに口を挟まない。
- ・相手の目を見て、頷きや相づちをする。

○話す人はどんな人か。(名前、立場、どんな活動をしているか、など)

○話を聞く「目的」を設定する(～について聞き取れるようにする、など)

**「要約力」のポイント**

- ・話のテーマや結論を最初にメモする。
- ・その結論の理由や根拠を聞き取りながらメモをする。
- ・箇条書きでメモをする。

① 講演内容メモ

↓

**「発問力」のポイント**

- ・「気になったこと」を出してみる。
- ・「立場」を変えて考えてみる。
- ・複数人で質問を考えてみる。→その質問の妥当性を考える!

② メモから「気になること」や立場を変えた疑問点を挙げる。

③ グループで質問を検討する。(妥当性→自分の「目的」にふさわしいか)

気になる度

↑

→

発展しそう度

**【振り返り】**

自己評価(それぞれ3段階で)

・傾聴力 →

・要約力 →

・発問力 →

○どうしてそう判断したか。

---

○次の「話を聞く」ことへの目標・改善点について。

---